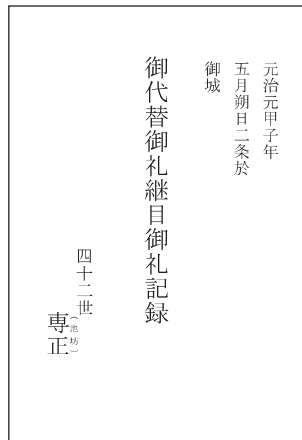
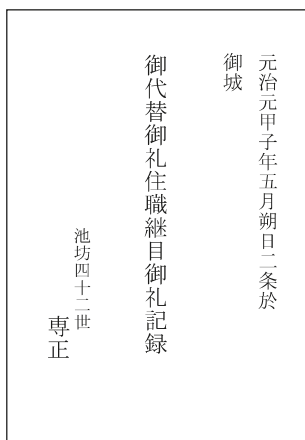


〔翻刻〕華道家元池坊總務所蔵「御代替御礼繼目御礼記録」

〔袋〕



〔表紙〕



史料1 「御代替御礼住職繼目御礼記録」

三月十日

一、東御役所江繼目御礼願書、去ル天保九年之通相認差出候処、左之通認替、御代替御礼加へ候様被申渡候ニ付、則筆工ニ而書、左之通り、

〔元〕元治元甲子年三月十日、東町奉行所江願上候願書扣

奉願口上覚

安政五年午十二月、御代替御礼、〔池坊專明〕先住之者方可申上候、病氣引続隠居仕候ニ付、拙僧儀万延二年酉二月、住職仕候ニ付、早速如先規繼目御礼 御代替御礼可申上候、病氣ニ付右御礼延引之儀、同年七月奉願候処、御開濟ニ相成難有仕合奉存候、然ル処、此節病氣全快仕候ニ付参府仕、右兩様御礼可申上候、当時 御上洛中ニ付、二条於 御城先規例書之通、此節 御目見被仰付、御礼申上度奉願上候、願之通被 仰付候へ、難有奉存候、則例書相添、此段奉願上候、以上、

六角堂頂法寺

〔專正〕池坊印

元治元年子三月 御奉行所

右小奉書堅紙ニ認メ上包なし、

〔元〕奉願口上覚

御代替御礼繼目御礼相兼奉願候、先例者無御座候得共、此節右兩様相兼 御目見御礼奉申上度奉願候、右ニ付、十帖〔本〕書本〔本〕奉獻上度奉願上候、且又先例之通、時服被下置候様奉願上候、右願之通被 仰付被下候へ、難有奉存候、以上、

〔乙〕公方様 正月十五日 御上洛、二条江御在城、
〔徳川家〕
五月七日大坂迄 還御、

六角堂頂法寺

元治元年子三月

池坊印

御奉行所

右小奉書堅紙壹枚ニ認メ上包なし、

〔正〕

先例書

一、惇信院様御代始

延享三年寅六月、專純儀、於帝鑑之御間 御目見恐悦奉申上、三御所様〔徳川家忠〕江十帖壹本壹台宛奉献上、同月十日御暇之節、於檜之御間時服二

拝領被 仰付、頂戴仕候、

一、俊明院様御代始

宝曆十一年巳四月、專意儀、於帝鑑之御間 御目見恐悦奉申上、〔徳川家重〕兩御所様江十帖壹本壹台宛奉献上、同月七日御暇之節、於檜之御間時

服二拝領被 仰付頂戴仕候、

一、文恭院様御代始御礼参府之儀、

早連可奉願候之處、先々住專定儀、病氣罷在、参府延引相成、寛政八年六月八日 御代替御礼并継目為 御礼参府仕度段奉願候所、同年八月廿六日被召出、継目御礼之儀者願之通

被 仰付、

御代替御礼之儀者先例者御座候得共、願後レ之儀二付、難相成段被 仰渡候、〔この部分、塗抹のうえ貼紙で抹消〕「右二付、翌寛政九年巳四月、為継目御礼参府仕

先例之通於帝鑑之御間公方様江御申上、

一、慎徳院様御代始

天保九年戌四月、專明儀、参府仕、於帝鑑之御間 公方様江御目見恐悦奉申上、〔徳川家忠〕三御所様江十帖壹本壹台宛奉献上、閏四月三日御暇之節、於檜之御間寺社御奉行青山因幡守様、時服二拝領被 仰付候段被 仰

渡、頂戴仕候、

一、温恭院様御代始御礼可奉願之所、

先住專明義、病氣罷在延引仕居候處、被遊 薨御候儀二付、参府御礼不奉申上候、

右之通御座候、以上、

元治元年 子三月

六角堂頂法寺

池坊 印形なし

御奉行所

右中奉書半切認メ上包美の紙、

〔才〕 例書

一、寛政九年巳四月、継目御礼奉願、公方様於帝鑑之御間 御目見、継目御礼奉申上、〔徳川家忠〕兩御所様江十帖壹本壹台宛奉献上候、御暇之節、於檜之御間

寺社御奉行土井大炊頭様、時服二拝領被 仰付候段被 仰渡、頂戴仕候、

一、文政五年午二月、継目御礼奉願、公方様於帝鑑之御間 御目見、継目御礼奉申上、〔徳川家忠〕兩御所様江十帖壹本壹台宛奉献上候、御暇之節、於檜之御間

寺社御奉行水野左近将様、時服二拝領被 仰付候段被 仰渡、頂戴仕候、

右之通御座候、以上、

六角堂頂法寺

池坊 印形なし

元治元年 子三月

例書：一 池坊

右中奉書半切ニ認メ上包美濃紙、

三月廿三日、左之通書附檉本五兵衛持参

六角堂頂法寺

池坊

右今廿三日五半時、東 御役所江無遅滞罷出候様被 仰渡候事、

三月廿三日

右二付、名代近藤大和付添川嶋長次郎五つ半時罷出候所、与力黒田小左衛門・

同心柴田勇四郎対面二而、先日願出候二条於 御城 御目見被 仰付御日限

者、追而達ス、

右請書先方ニ認メ有之候間、調印致し引取候事、帰二右両家江廻勤致し候事、

金三百疋黒田、金三百疋柴田、町代式軒へ式朱宛、右二付、北城番大西政八

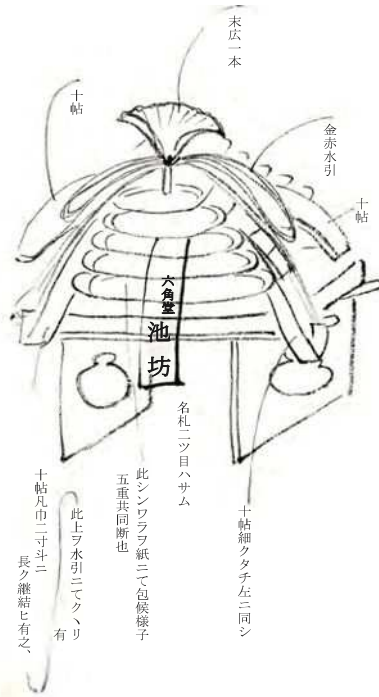
郎・柘植哲三郎・井上栄次郎二、今日御聞濟之事手紙遣し候事、御玄關番松

井金一・横尾惣五郎江八、井上栄次郎より頼呉候事、表坊主高瀬勇益、是ハ

平井善朴親類ニ而頼置候事、又御教寄坊主鈴木宗栄者門弟ニ而頼置候事、外

御除番

二佐野宗眠、是ハ鈴木方頼具候事、御徒目附頭清水崎太郎殿、是ハ采次郎方頼具、願書等相談致し候事、関東ニ而者御小人相頼、大下馬方御玄関前迄案内相頼候得共、当地者大西并柘植案内頼候間、御小人者頼不申之事、御殿番田中直右衛門、是者采次郎同役ニ付頼置候事、又表坊主佐野宗眠、是ハ高瀬友益方方人ニ而者無覚束由ニ而、頼具候事、
献上物十帖本壹台用意致し候事、御殿番井上采次郎へ相頼、御納戸方ニ而調貴候事、代金貳百疋也、御納戸方掛り兩人江百疋宛貳包、挨拶致し候事、



〔附紙2〕
〔文政5年参府之節、
江戸常盤橋御影堂、七兵衛へ申付、

代 三拾五匁
天保九年御代替参府之節、水谷齋跡殿セ話ニテ、殿中ニテ用意出来、代
壹部貳朱也、

元治元年二条於 御城継目御札相勤申候節、殿中ニテ用意相頼申候事、
代 金貳歩也、
セ話人 井上采次郎

〔五〕
四月廿八日夜四つ時、左之通書附出来、

六角堂
池坊

右之者、明廿九日九つ時、無遅滞東 御役所江罷出候様可申遣事、
四月廿八日 東御上洛掛り

証文方

猶以被 仰達候儀有之候間、其心得ニ而罷出候様、無急度可申遣事、

四月廿八日
右之通承知仕候、以上、

六角堂
池坊印 役所押切判
致し候事

〔乙〕
四月廿九日四半時方東町奉行所小栗下総守殿役所江罷出候、供待真崎才藏
侍白井又次郎
草り取幸助同
心芝田勇四郎面会、今日ハ〔備川家宛〕公方様御参 内ニ付、奉行早朝方登城致候故、
引取迄ハ替間も有之候間、此近辺下宿ニ而相待候旨被申候ニ付、公事宿鍵屋、
其外三軒程尋候所、皆々塞り有之候付、又々罷出、休息所無之候ニ付、自坊
へ引取相待可申哉之段相尋候所、夫ニ而者間ニ合兼候間、何れ成共近辺ニ扣
居可申と被申候ニ付、又候下宿相尋候所、神泉院町下ル西側ニ軒目丹波屋ニ
下宿致し候間、又役所へ罷出、丹波屋方ニ扣居候旨相届候事、夜ニ入候ニ付、
迎ひ永田家来和田康次郎灯笼持、門番伝助参り候事、初夜前呼ニ参り候ニ付罷
出候所、柴田勇四郎面会、左之通御書附被渡候間引取候事、夜四つ時前帰宅、

〔乙〕
六角堂
池坊

右明朝日五半時、御城江可罷出、作法宜可相心得候、
一、独礼等相願候者も有之候得共、人数多、且者 御在京中御間狭之儀ニも
有之候間、御略式ニ而御礼被為 請候、

但 御代替継目拜礼之心得ニ而可罷出候、
四月廿九日 右日向半切ニ認メ被渡候事、

〔丙〕
五月朔日卯半刻供揃、行列左之通、
徒士麻上下 和田康次郎 沓箱

露弘羽織袴 徒士麻上下 網代塗袴
 輿陸尺四人 法橋衣 若党
 近藤大和 草り取
 徒士麻上下 麻上下 真崎才藏
 傘箱 (春彦)

合羽籠 ハッヒ 同 ハッヒ 兩掛 ハッヒ 宰領麻上下 棒頭伊勢屋幸助 小紋羽織一丁
 扇子入

辰ノ上刻出門、六角、室町、押小路、油小路、二条、堀川橋之下馬札前ニ而道具落ス、御城東ノ御門前ニ而下乗、近習兩人沓持押 近藤大和 若党 都合供七人、

但シ雨天ノ時者長柄持、且又献上物長持可持筈之所、御殿番方献上掛り 江頼吳、御城ニ而調吳候ニ付、此度者長持なし、

東ノ御門・御唐門・御車寄方上ル、此処 江 御玄関番松井金一出迎ひ、御玄関方近藤大和老人召連上り候事、段ノ上り口方御坊主鈴木宗栄案内、殿上ノ間

ニ着致ス、此所 江 佐野宗眠・高瀬友益・中嶋九慎、御殿番組頭役田中直右衛門、御玄関番松井金一挨拶ニ参り候事、直様高瀬友益案内ニて御殿向拜見、御黒

書院牡丹ノ間御礼之ケ所拜見致し、夫方新立式百畳之間ニ、御同朋預り御道具置場と云張紙有之、間屏風ニ而仕切有之所へ案内致し吳候而、此所ニ休息

致し居候所、御坊主下役六尺と申者、袴ヲ着候者、茶たはこほん吳候、休息中御坊主四人替る、見舞吳、且御礼之刻限等咄し致候事、井上栄次郎弁当

はこび吳候、支度之節者右六尺土瓶ニ而茶ヲ吳候事、明弁当者栄次郎方供之者へ廻し吳候、献上物二百畳之間御廊下之所へ栄次郎持参致し吳候事、夫方

御坊主牡丹之間へ運ひ吳候事、休息致居候所へ、町奉行組与力黒田小左衛門参り、献上物持参致し候哉、掛り御坊主之方へ引合置候哉、殿中者掛り違候

故、御坊主之方へ引合置可申、且又小栗下総守も出勤致居候間、尋度事有ハ無遠慮可尋旨、且又中ノ口行当り廊下ニ町奉行方詰所と書附有之候間、御礼

相濟候節届ケ置引取可申、且又今日引取候節、町奉行へ廻勤可致旨申置候、午ノ半刻頃、高瀬友益・佐野九慎案内ニ而習礼之旨申参り候ニ付罷出、直様

御目見御礼無滞相濟候事、近藤大和者蘇鉄之間入口ニ扣居候、寄合御目附建部徳次郎殿・戸川伴三郎殿、御奏者番本庄宮内少輔殿御披露、夫方二百畳之

間休息所 江 引取候所へ御坊主参り、勝手ニ下り候様被申候ニ付、町奉行方詰

所江近藤大和名札持参、相届候而下り候、井上栄次郎供之所へ通し吳候事、御坊主御玄関迄送り吳候、東ノ御門前ニ而乗輿、左之ケ所廻勤之事、但シ五本入扇子箱持参献上、但町奉行ハ扇子なし、但シ合羽籠道具類者番場不通候間、堀川方日暮迄先へ廻し置候事、箱ハ不苦候事、

御老中 稻葉美濃守殿 (正邦) 旅宿諸司代屋敷 扇子

御老中 酒井雅楽頭殿 (忠續) 旅宿千本屋敷 扇子

若年寄 秋月右京亮殿 (種樹) 旅宿下立売千本西へ入勝殿院 扇子

若年寄 田沼玄蕃頭殿 (意尊) 旅宿出水七本松角慈眼寺 扇子

諸司代 松平越中守殿 (定敬) 旅宿鷹ヶ峯陣家 扇子

西町奉行 瀧川播磨守殿 (具知) 旅宿六角堀川東江入亀屋 扇子

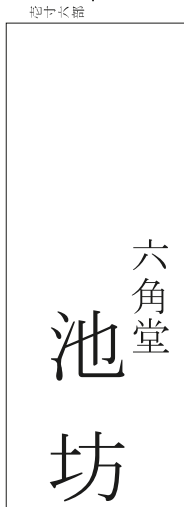
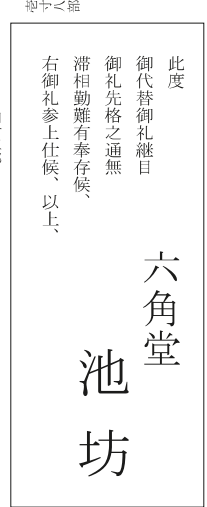
東町奉行 小栗下総守殿 (政寧) 旅宿姉小路堀川東江入妹辻子栄正寺 扇子

御老中 水野和泉守殿 (忠精) 旅宿二条寺町妙満寺 扇子

若年寄 稻葉兵部少輔殿 (正巳) 旅宿二条寺町妙満寺 扇子

惣裁職 松平大和守殿 (直克) 都合十ヶ所廻勤、無滞相濟、七ツ時帰坊致候事、

玄関へ差出し候名札



扇子箱下札

六角堂池坊

人足十五人江 酒料貳百文宛遣ス、伊勢屋幸助へ 酒料金壹朱遣ス

〔ス〕

今朝、左之通り、封金近藤大和持参、二百畳之間詰所ニ而井上栄次郎へ相渡す、献上物料金貳百疋、同掛り江金百疋宛二包、御玄関番松井金一江百疋、御掃除番横尾惣五郎へ金百疋、同下役へ金五十疋、御台子六尺六人江金貳百疋、表御坊主中間へ金三百疋、都合八包、長片器五枚相添遣し候事、

御徒士目附頭清水崎太郎殿へ、三月十日出願前内々相頼、願書内見等相頼、猶又殿中万端相頼置候二付、今日無滞相勤候礼、近藤大和室町三条旅宿へ遣し候事、旅中見舞として菓子料金五百疋、井上栄次郎持参致し候事、

五月二日為挨拶近藤大和廻勤致し候事、

御数寄屋坊主	鈴木宗栄	金三百疋	同佐野宗眠	金三百疋
表坊主	高瀬友益	金三百疋	同中嶋九慎	金三百疋
御殿番組頭	田中直右衛門	金貳百疋	同井上栄次郎	金貳百疋

井上栄次郎最初方周旋セ話致し候二付、別段心付金三百疋遣ス、

即日立華 上覽窺書差出し可申先例ニ候得共、二日御暇御参 内ニ付、出願不致差扣候所、五月七日大坂迄 還御被遊候二付、此度者立華 上覽之儀者延引致し候事、十六日大坂 御発途之事、

〔七〕

御書付

当地 御発駕 御当日 御城内外御門々并 殿中 御作法向、且 御見送罷出候面々 御目見場所、其外着服之義、都而當春之振合を以相心得、尤二条口内江罷出候面々者、三条口新柵際方東御門外腰掛之方江掛り立並 御目見可仕候事、

右之通伺相済申候、依之申達候、
岩田半太郎
杉浦兵庫頭
岩田半太郎

〔乙〕
御道筋

御城東御門より左江、三条通右江、烏丸通左江、四条通右江、寺町左江、五条橋御渡越右江、伏見街道稻荷境内裏道通、愛染院 御小休、夫方左江、京町通左江、豊後橋際 御石場方 御船二被為召、淀川筋於 御船中

御弁当被 召上、大坂備前橋 御上り場方被為 上、京橋喰違御堀端迄、追手御門 御入城、

右之通伺相済申候、依之此段申達候、

杉浦兵庫頭
岩田半太郎

〔明七日 七半時御供揃〕

〔乙〕五月朔日、曇、九ツ時前雨降、其後追晴、

一、今曉丑刻方用意致し候事、朝六ツ半時方登 城之事、

押 徒士	網代乗物	陸尺四人	沓持	九郎右衛門
徒士	侍	和田幸太郎		
徒士	侍	真崎斎藏	兼	

長柄 挾箱 笠籠 同 両掛 には図ニ委細有之、

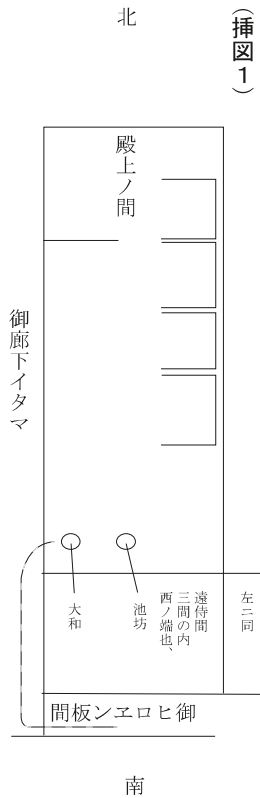
近藤大和 侍白井又二郎 下部一人

道筋、六角左へ、室丁左へ、押小路左へ、油小路左へ、二条堀川橋渡り、東大手御門前二下乗札有之、是ニて下乗、是ニテ供廻落ス、若雨天の節ハ長柄ハ御門下ハ不用、御門入テ又指掛、御玄関迄さし掛申候事、右の所方近習二人、沓持斗ニて罷入、近藤大和付添、右御門内 御玄関迄之処、案内城番組の内大西政八郎・柘植哲三郎頼置候所、間違ニて御池口へ罷出居候由ニて間ニ合不申事、右ニ付案内なしニ通り候処、番所ニても何之仕細も無之、御玄関迄罷出候事、右下乗方 草履ニて罷入、御唐門前方沓ニて 御玄関迄参る、御車寄敷石ニ 御玄関番松井金一殿待受、檀ヲ上リテ御数寄屋坊主鈴木宗栄殿、同役佐野宗眠殿案内ニて 殿上之御間ニ着座、是へ右松井金一・御掃除番横尾惣五郎挨拶二被参、御玄関番同役下申 同道御座候得とも、是ハ頼置不申故、挨拶遣し候ニ及不申候由、井上栄二郎方承る、

表御坊主
高瀬友益殿・同役中嶋九慎殿面会、中嶋ハ今日始而面会、万事宣敷御頼申候段申置、

右殿上之間ハ御屏風ニテシキリ有之、同間上の方ハ大名方御詰席之由、屏風ニテ柳間・雁之間等御シキリ有之候事之由、既ニ同間シキリノ内下方老間目(フキマ)ハ御一人、御着座有之、池坊ハ凶之処ヘ着座の事、尤御坊主差凶ニテ、

(挿図1)



一、高瀬友益殿案内ニテ、御黒書院其外御殿向拜見致候事、御黒書院其近辺ハ不残直信筆之由、殿上之間同近辺ハ探幽筆、(許野) (大和も同様)

一、右相済、殿上之間ニ扣居候筈之処、御坊主并井上栄二郎世話ニテ、昨年御新建二百帖之(三枚奥ニ)御間の内、御同朋道具置場ト申書付の処、屏風シキリニテ休息所出来有之、尤外々寺社も同所シキリの内休息有之、左隣ハ八幡之坊也、同所ニテ昼弁当も遣ひ候事、同所ニ扣居、弁当も同所、御台子六尺三人頼置、同兩人斗茶土瓶へ入被呉候事、弁当ハ栄二郎供方受取持参致し呉候事也、供も弁当栄二郎世話ニテ、御掃除番下役方茶等呉られ候事、

一、高瀬友益殿同所ニテ御老中・御若年寄・惣最職・所司代等、今日御目見済、御礼廻勤ケ所書付被呉候事、右ハ前ニ栄二郎方委細承り記し置候事也、

一、鈴木宗栄殿方、今日御目見之節、寄御目附御披露、御奏者本庄宮内少輔殿、右書付被呉候事、

一、凡五ツ過登、城方四ツ過弁当遣ひ、相待居候処、九ツ半時御目見之事、外々寺社等ハ習礼有之事、此方ハ右前ニ拜見致し、友益殿方委細承り置候二付、別段習礼無之候事、

一、只今御寄ニ御座候ト友益殿沙汰有之、御黒書院へ惣寺社罷越候事、御黒書院溜之間ノ入口御廊下詰之処、蘇鉄之間也、此入口ニテ御目付ハ一人ノ帳面ニテ合、老人宛繰出し候事、溜之間へ集着座之事、前後之差別無之、寺社之分座、次ニ町人同間也、

右着座致し居候処、凶之所ニテ大名方之御礼有之、委細寺社之所方相見へ申候事、

(挿図2 挿入位置)

廿九日御奉行方被仰渡之節も御書付有之、独礼之分も御間挟ニ付、皆惣礼一緒ニ着座の事也、寺社町人一席也、町人ハ、関東ニテハ御通行之節、帝鑑之御間ノ外之御廊下ニテ平伏致し居、御通行御座候由、右ニテ三席一緒ニ相成候事之由、

一、大名方御礼始、松平越中守殿献物、前々脇方持参、次松平隠岐守殿、次又松平越中守殿、次ニ御兩人一緒ニ御出有之、色々有之、(奥) 専涌寺・平塚惣檢校杯ハ右大名方ト同間也、右披露本庄宮内少輔殿、

松平越中守ト大音ニテ御披露、上方御返事有之テ、御役儀御礼申上上卜有之、直ニ御引取、次ニ松山様献上物持参相済、隠岐守殿被進、前之通御披露有之相済候事、尤専涌寺・平塚等ハ、上方御返事ハ無之、何レも太刀・金・馬代ハ御自分御持参、真崎様ハ大基ハハタ本か、兩人持参之事也、

一、右相済候而、本庄殿凶之所へ着座、寺社披露之事、暫而御襖明キ、(左右) 出御、一統平伏の事、惣礼寺社・町人共ト御披露有之、尤立御之由也、右御披露相済、入御、御襖ベリ候事、一統引取申候事、此方ハ前之二百帖之間之内、休息所へ参り休息して、

高瀬・鈴木・井上栄二郎等挨拶、御蔭ニテ無滞相済候段礼申退出、一、町奉行組詰所へ、前以御礼相済候て相届様、

(挿図3 挿入位置)

右之通万々無滞相済候事、

〔子〕
三月廿三日
一、金三歩

御池屋敷与力

黒田小左衛門殿へ

御代替御礼継目御礼 御聞濟二付、御証文方へ挨拶、菓子料近藤大和廻勤、

右同断同心

柴田勇四郎殿

同断

町代奥田江

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

同
一、金三歩

御数寄屋方鈴木宗栄殿

同役佐野宗眠殿

御徒士目附頭清水崎太郎殿

御殿番栄二郎・同役田中直右衛門

同井上栄次郎

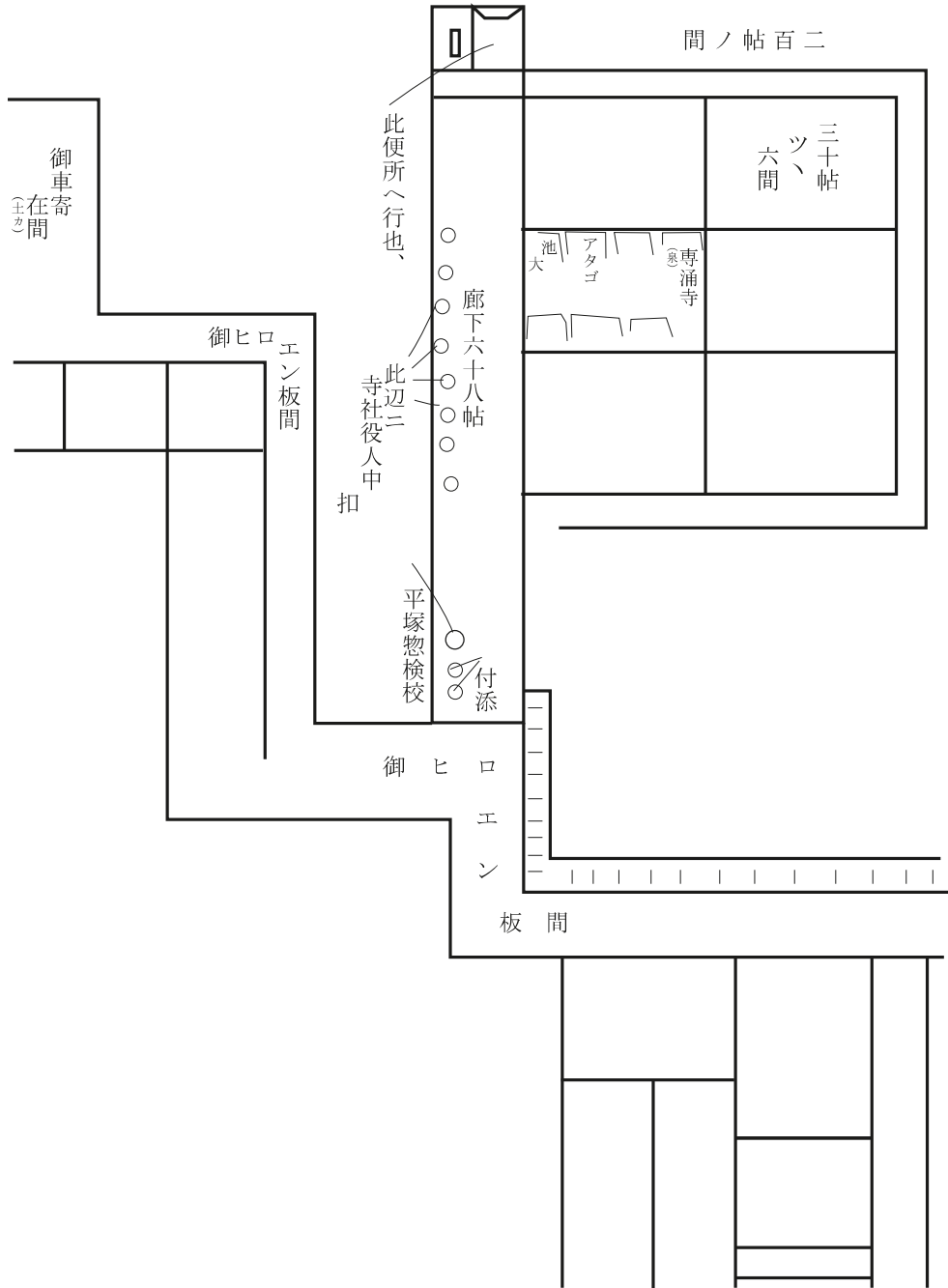
同人へ最初方□□来、□□世話相成候二付、別

段仰付、

伊勢屋へ祝儀、今日登 城二付、

同人足十五人へ、忝人二百文ツ、

(挿図3)



史料2 「池坊專正口上書」

御伺申上候口上書

御上洛之節、御迎并恐悦ニ罷出候先例書留者無御座候得共、罷出候ニ相違無御座候与奉存候間、外寺社同様ニ御差図被為成下候様奉願上候、以上、

文久二戌年

十二月

六角堂

池坊(印)

御奉行所

史料3 「鈴木宗栄書状」

(端裏ワハ書)

「池の坊様

宗栄

」

薄暮之節、益御勇健奉恐悦候、然者三日の参上致拝顔大慶仕候、扱不時御礼来月朔日ニ可相成候、左候ハ、御登 城ニも可相成哉、先御心得迄ニ申上置候、以上、

四月廿六日

史料4 「田中直右衛門・井上栄次郎書状」

(端裏ワハ書)

近藤大和様

御城ニ而

田中直右衛門

井上栄二郎

無別条急用、

薄暮之節、弥御勇健奉賀候、然者来月朔日其御坊様 御目見被 仰出候間、不取敢為御知申上候、右之段得貴意如斯御座候、以上、

四月廿七日

尚々表向者寺社奉行方達被申候得共、内々承知伝候間、申上置候、且乍御面倒別封法立寺様江御届被下様奉願候、以上、

史料5 「高瀬友益書状」

蓮日鬱陶敷天氣合御同前困入候事ニ御座候、扱昨日者いつミニ而参殿相能奉得尊顔大慶不斜奉存候、其砌茂御目見一条ニ付而者、段々御丁寧ニ被仰含御入念之御義痛入奉存候、且一寸御噂申上置候、絵図面之義者近日入御覽度、左様思召被下候、猶此品志乍左少為紙代入尊覽候、御笑留可被成下候、先ハ此段申上度、艸々如此御座候、以上、

四月廿七日

尚々乍延引御文庫御服紗返上仕候、御落掌被成下候、已上、

(墨引き)

池御坊様 高瀬友益

貴下

池御坊様 高瀬友益

貴下

史料6 「東町奉行所証文方書付(写)、池坊書付(写)」

六角堂

池坊

右之者、明廿九日九ツ時、無遅滞東御役所へ罷出候様可申遣事、

四月廿九日 東御上洛懸り

証文方

猶以被仰達候儀有之候間、其心得ニ而罷出候様、無急度可申遣事、

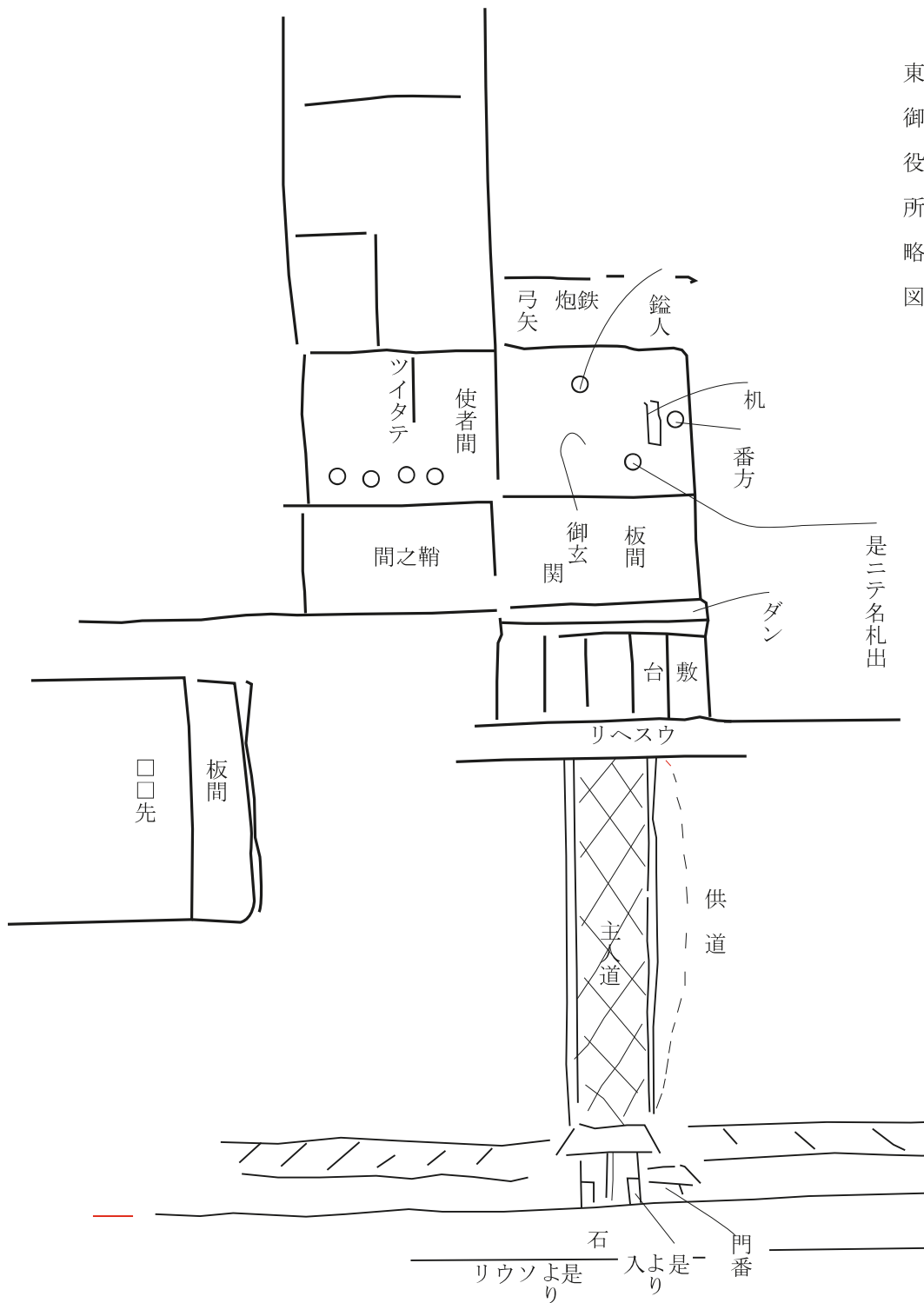
右之趣奉承知候、以上、

四月廿九日


右池坊

史料7 「東町奉行所略図」

東御役所略図



史料8 「高瀬友益書状」

御再翰被成下、奉拜見候、如尊意兎角鬱陶敷天氣合困入候、扱明朝日者弥御目見被仰、恐悦御義奉賀上候、就而者鈴木氏方も一昨日一寸御案内申上候由、昨日従是茂為御知可申上候處、井上氏御寺江罷越候趣二付、別段不申上候、且殿中御着服之義迄被仰下御念之被為人候御事、其外閑東表之御進退等、巨細承知仕候、則過日旨御咄申上候、二条殿中絵図面大小式通入御覽候、御心得通二御一覽置可被遊候、

閑東表大広間替席

一、当朝御玄閑方御登 營、殿上之間御次江御扣之事、

一、御昼食御休息所者、昨日内々井上氏江も示談仕置候通、二百疊之間二而可然事、

一、閑東表二而者、帝鑑之間にて御礼被差上候由、当殿中者右御替席、牡丹之間之事、

一、御献上物ハ表向御扣所、殿上之間江御持込被遊可然事、

一、此度御頼被仰込候同役名前、中嶋九慎二御座候、過日鳥渡認メ可差上筈之處、全く無念ニ而取落僞忽之段、何卒御海容奉希上候、先ハ必□の

□せ可然如此御座候、尚明朝得鳳声万々可申上候、艸々以上、

四月廿九日

尚々右御参御答可仕候處、無扨去難用向にて他出仕候次第二付、乍大略右書中御請迄申上候事二候、尤絵図面者緩々御留置にてよろしく御座候、以上、

(墨引き)

奉復

友益 (高懸)

玉床下

史料9 「鈴木宗栄書状」

(備葉ウハ書) 一、御請

(鈴木) 宗栄

昨烏ハ貴墨被下奉拜見候、如命不勝之天氣相御座候へ共、益御勇健奉恐悦候、然者明朝日、御礼別紙之通り弥御座候、何卒御写取り被下、跡方御返シ可被下候、御着服之儀、委細被仰下承知仕候、尤如先例之儀と相心得申候、御玄閑方私共御案内申上、二条 御城にてハ殿上間江御扣へ被遊候、御目見御席ハ 御黒書院御次間二相成申候、万事明日御目通り御取持可仕候、御請迄早々以上、

四月廿九日

猶以何寄之御菓子頂戴、毎々難有仕合存候、貯置度々初味奉楽候、以上、

史料10 「六角堂池坊名札」

(10の1)

此度 御代替御礼継目

御礼、先格之通無滞相

勤難有奉存候、右御礼

参上仕候、以上、

六角堂

池坊

(10の2) ※10の1と同文言のため省略

(10の3) ※10の1と同文言のため省略

(10の4)

六角堂

池坊

史料11 「五月朔日役儀御礼書付」

五月朔日

御座間

御役儀御礼

御太刀金馬代

稻葉美濃守
(正邦)

御黒書院

御役儀御礼

御太刀金馬代

松平越中守
(定敬)

中将還任之御礼

御太刀金馬代

井伊掃部頭
(直繼)

錦三十抱

位階之御礼

同断

松平隠岐守
(勝成)

少将之御礼

同断

松平越中守
(定敬)

官位之御礼

御太刀金馬代

黒田甲斐守
(長元)

伯耆守嫡子
(松平宗秀)

御太刀銀馬代

松平伊予守
(宗武)

位階之御礼

同断

高家(信礼)
中条中務太輔

御推任劍之御祝儀
(叙以下同)

同断

大乗院御門跡使者

杉田和泉守

同
一乘院御門跡使者

同断

森田将監

寺務拜任之御礼

御太刀銀馬代

御同人使者

羹物

二条民部卿

御推任劍之御祝儀
(任)

興正寺使者

御太刀銀馬代

有馬藏人

同
同新發意使者

同

同人

御上洛之御祝儀

泉涌寺

繼目御礼

平塚惣檢校

御次一同

初而御目見
(幸敷)

真田信濃守家来

海陸御備向掛御雇

佐久間修理
(象山)

同
京地浪人儒者

伊藤徳藏
(古義堂)

同
松永臨次郎

御上洛之御祝儀
其外御礼

寺社人

御上洛之御祝儀

六孫王大通寺住持

遍照院

醍醐山(五十一坊惣代)

東向坊

三井寺頭代
真如院
慶春院
北野宮仕
（惣代）
江州
多賀大社別当
尊勝院
代僧
愛宕山
大善院
教学院
（勝地院）
長床坊
威徳院
福寿坊
北野宮
玉泉坊
南都衆徒
中御門薩摩
勝南院宮内
龍安寺
知恩寺
東大寺一山惣代
龍松院
八幡山上惣代
辻床坊
同社上当役
森本内蔵允
谷村外記
谷村頼母

落合守礼
繼目
御代官
岩本坊
参上
法隆寺惣代
安養院
御代替
將軍 宣下
繼目 御礼
六角堂頂法寺
池坊
八幡山
關加井坊
豊蔵坊
当社御造営之御礼
鴨一社惣代
泉音三河
御代替繼目
麟祥院
東寺一山
（惣代）
祇園社務執行
宝寿院
大徳寺
清浄華院
栗生
光明寺
菅浦

観音寺
参上

大津惣代

御上洛之御祝儀

町人共

清水市郎右衛門

朱座年寄

下村亀五郎

京屋助一郎

尾本源吉郎

為替三井組

三井元之助

三井治郎右衛門

三井三郎助

御勘定所御用達

三井八郎右衛門
(高福もしくは高明カ)

為替十人組

小野善助

嶋田八郎左衛門

奥田仁左衛門

荒木伊左衛門

竹川彦太郎

御作事奉行支配

望月徳助

宇治

御物茶師

辻東馬

御納戸構

初而 御目見

御代官

数馬養子

小堀右膳

同

二条御城御門番頭

与□□惣領

和多田八太郎

同御殿頭

志之助惣領

三輪増太郎

同

同御武具奉行

新二力惣領

齐藤恒太郎

同

御書物奉行次席

二条御藏奉行

□□二郎惣領

神尾清三郎

同御代官

淀川過書船支配

与一養子

角倉多吉

同

二条御藏奉行

雅二郎惣領

中村辰之助

史料12 「立花上覽例書」

- 立華 上覽被 仰出候節差上來候例書
- 一、御立華仕候節、込藁之儀者、前日持參仕、仕込候様可仕候、
 - 一、御立華之花具、池坊 中ノ口迄池坊持人ニ而、長持二棹持參り、夫より御坊主衆取扱ニて、御黒書院江御運付被下、立華指上候後、明キ長持出シ候節者残花入置、見苦敷御座候ニ付、蓋仕候儘ニ而相下ケ申候ニ付、御附人被仰付被下度先例ニ御座候、但前日・御当日とも長持式棹持參仕候事、
 - 一、前日 御城江罷出候者、明六ツ時比方罷上り、行之花二瓶、草之砂物一瓶、都合三瓶下組仕候ハ、凡一時半ニは出来可仕候、何レとも八ツ時迄二者取仕舞候様可仕奉存候、
 - 一、真之花一瓶者御当日ニ仕立候得者、真、受、流枝等者下拵仕置持參仕、夫より取組、其外之品者荒道具方仕立候而も一時半程相懸り候、六ツ過時方取懸り候ハ、四ツ時過出来仕候様、可相成と奉存候、
 - 一、水之儀者、手桶ニ而式荷程之積ニ被 仰付置被下候様仕度奉存候、但柄杓老本御添置可被成下候、
 - 一、砂之儀者寒水石ニ而凡老升入、十袋程御用意被 仰付候様、書留ニ御座候、
 - 一、御日限御治定御座候ハ、何卒二三日程間御座候様仕度奉存候、
 - 一、水次老ツ御用意被 仰付候様仕度奉存候、
 - 一、毛氈十五枚程御用意被 仰付候様仕度奉存候、
 - 一、御床御花具拝見參上之節、御砂鉢底板先格之通御下ケ被成下候様仕度奉存候、
 - 一、御床拝見并前日立花取組・御当日三度共 御城江參上之節者、中ノ口方罷上り候、門弟共同様之儀ニ御座候、
 - 一、御花立調前日・御当日、兩日共池坊ハ御医師之間ニ而御料理被下、門弟共者上御台所ニ而頂戴仕候事、
- 右之通先年相勤候儀ニ御座候、以上、

六角堂
池坊
専正

史料13 「鈴木宗栄書状」

(端裏ウハ書)
池坊様
(専正)
宗栄
(鈴木)

一、

奉拝見候、益御勇健奉恐□候、然者段々御丁寧被仰下、御扇子沢山被懸貴意、不淺難有仕合奉存候、別し御礼申上候、御暇乞參上可仕候心掛も、明朝出立、大取込早々、以上、

五月八日

尚々御端書之儀承知候へく候、以上、

史料14 「池坊専正口上覚」

奉願上口上覚

一、

当三月十日 御代替御礼継目御礼奉願上候処、同月廿三日 御開濟、五月朔日右兩様 御目見御礼、二条於 御城被 仰付、難有奉存候、然処古來御代替御礼継目御礼等、參府 御目見被 仰付、御暇之節、時服二拝領仕候先例ニ御座候ニ付、則三月十日奉願候通、此度茂先規之通拝領物被仰付被下候ハ、一寺之規模相立難有仕合奉存候、右願之通御許容被成下候様奉願上候、以上、

六角堂頂法寺

元治元年
子七月

御奉行所

池坊
専正